説明会及び意見交換会の概要

日　　時	平成２５年　１０月　１５日　（火）　１９：００～２０：００		
対象団体	気高地域住民	参 加 者 数	５人
場　　所	気高町総合支所		
出 席 者	山田支所長、安藤副支所長、茅山地域振興課長補佐、小林学校施設係長、校区審議室（神谷、小谷、清水）		

	主な意見、質問等	質問に対しての回答
1	自分の思っていた通り統合しないとの結論に安心している。中学校は新しく建て替えになり素直に喜んでいる	―
2	子供はある程度の規模の中で教育すべきというのは大人の考え。子供自身はそんなことは思っていない。瑞穂小は小規模で、確かに体育の時間に集団で行うスポーツが出来ない面はあるが、子供自身は多人数で学びたいとは思っていないのでは。子供の声を聞いてみて欲しい。少なければ他学年との交流が深まる面もある。地域に小学校は根付いていて、保護者も地域と一緒に子育てをしている。学校が無くなると、地域との接点が無くなってしまう。小学生は自分の足で通える校区がいいのでは。小規模校を残すと色々と費用が掛かるだろうが、他の予算を削ってでも子供たちのために使って欲しい。	校区審議会は、統合も含めて学校のあり方を考えましょうと言っているが、小規模校は統合と決めつけている訳ではない。当然、統合以外の選択肢もある。ただし、スポーツや勉強等の面で、ある程度の規模は必要ではないかと考えている。だから、とにかく学校を残すというのではなく、残すのならこんな学校にしていきたいといった視点から、地域で学校の将来像を模索していただきたい。地域が子供の将来や学校のあり方に責任を持ち、学校づくりに積極的に関わっていただきたいと思っている。地域としての方向性をまとめていくためにも、「教育を考える会」といった組織の立ち上げを期待している。
3	学校が無くなると、地域は過疎化すると思う。大人になっても地域に残ってくれる子供に育てたい。地域との関わりを大事にして、ふるさとを大切にする子供に育てるためには学校が必要だと思う。	
4	若い方が地元にいることが出来る施策をお願いしたい。仕事がないから出ていくとか、住むところがないから出ていくといった問題がある。人口が減って子供が減るのが一番の問題。子供たちに残ってもらえるような施策をお願いしたい。	子供が減るから学校を減らすのではなく、子供を増やすことを考えるべきとの意見を各地でいただく。地域の振興策は、市政の重要な課題として取り組んでいるが、行政だけでなく地域の皆さんの取り組みもカギになる。話の中に「子供たちに残ってもらえるような・・・」とあったが、まさにその点に尽きる。勿論行政も考えるが、子供たちに残ってもらえるような学校づくり、魅力的な学校づくりを地域も一緒になって考えていただきたい。
5	５０年前、上光（かみみつ）、下光（しもみつ）、夏ヶ谷（なつがたに）という３つの集落に１つの小学校（上光分校）があった。１年から３年生までで５０～６０人だった。４年生から宝木小に通い大きな規模を経験した。少ない人数での学校も楽しかったし、４年生からのたくさんの友達との生活も楽しかった。今後を考えると、４つを１つにするというのは無理があり、浜村と逢坂、宝木と瑞穂といった枠組みで統合を考えていくべきでは。それも半年で結論ではなく、数年の時間を掛けた調整が必要だし、距離が遠くなるので、交通手段の確保が大前提となる。	以前は、中学校の校舎の耐震問題があり、早く結論が出るよう考えていたが、改築が決まったことで腰を据えた議論が出来るようになった。小学校のあり方も中学校の問題を絡めていたため、早い結論を迫られているように感じた方もいたかも知れない。今後は、ある程度の時間を掛けて方向性が出していければと思っている。無理やり期限を切ることまでは考えていない。
6	夕方のニュースで、統合したら通学に時間がとられ、外遊びの時間が少なくなり、スクールバスを使うので子供たちの体力が落ちたとか、この対策のために、スウェーデン式の遊具を導入するといった特集があった。	正にそのような話を地域でしていただきたい。お金のことは協議の必要が出てくるが、地域の思いに沿った学校づくりに協力したいと考えている。

説明会及び意見交換会の概要

	主な意見、質問等	質問に対しての回答
7	もし統合した時に、学校の無くなった地域住民と子供たちとの接点は無くなるのでは。	青谷は５校の小学校が１校に統合され、４地区から小学校が無くなった。以前は小学校が地域と子供を結び付けていたが、今は地区公民館が窓口になっている。地区公民館がまちづくりのイベントや行事を企画して、交流や地域活性化に取り組んでいる。学校が無くなり子供が減ったとは耳にする。合併町村の中でも青谷は一番人口減少率が激しく、子供が減っていることは確かだ。先日ある地区の敬老会が行われた。これまで地区の子供たちだけで歌や踊りを披露していたが、子供の数が減少したので、地区公民館はその地区以外の子供たちにも声を掛けて会を成功させたということがあった。このように旧小学校区という考えにとらわれない動きも生まれつつある。学校が無いなら地域で、地域で難しいなら旧町でといったように、みんなが考え活動していることを知って欲しい。なお、決して統合がいいという前提で説明したものではないことを付け加える。
8	新校舎は補助金を使って建てると思うが、将来的に生徒が減って、もし統合となった場合は補助金返還等が出るのか。補助金返還の縛りは３０年程度あるのでは。	文科省は１０年経過すれば補助金返還の対象にならない。しかし、施設の対応年数は５０年～６０年は確保されている。１０年後に、もし統合により校舎として使用しなくなっても、例えば地域のコミュニティーセンターや社会福祉施設などへの用途変更も考えられる。
9	最初から転用できるような施設として校舎を作ることもあるのか。	あくまでも学校として建てるもので、その後の転用を見据えて建てるものではない。そこで学び生活する教員や生徒が使いやすい施設を建てる。
10	気高中の体育館改修の間、代替施設はどうなるのか。	体育館の代替施設はない。気高町トレーニングセンターなどを利用してもらうことになるかも知れない。
11	気高中はランチルームや武道館が出来て、私が通っていた当時より施設的に充実している。他に子供たちが喜ぶ施設は何かないかなと思っている。	アイデアがあれば色々要望していただきたい。設計はこれから始めるので、皆さんの意に沿った校舎が出来る可能性も高い。勿論、財政担当との相談が必要になるが、初めから諦めるのではなく、どんどん出していただきたい。
12	教室の広さに制限はあるのか。部活の道具など荷物が多いためロッカーからはみ出すとよく聞く。こういった収納の変更は可能か。	基本的に、日々使うものにお金を掛けたいという思いがある。年に数回しか使わないステージを要望する学校もあるが、そういった設備より生徒や教員が日々使いやすい校舎を建てることにお金を使いたい。校舎全体の面積に制限はあるが教室の広さに制限はない。収納については学校側からも要望はあると思うが、ＰＴＡからも声を届けていただきたい。
13	気高中の教室棟は山側で、海に面していない。通学していた当時、海側に教室があったらと考えたことがあった。	校舎配置についても今後考えていくことになる。学校側であったり保護者の皆さんであったり、いろいろ要望をいただきたい。
15	プレハブ校舎はグラウンドに建てるのか。プレハブ校舎の強度はどれくらいか。授業中に地震が起きた場合は大丈夫なのか。プレハブと聞くと、イメージでは、台風でひっくり返るような代物に感じてしまう。	体育館の動線やグラウンドへの出入りを考えたら、グラウンドになるのかなと考えている。床とか壁は薄く、生徒が騒ぐと物音はよく聞こえたり響いたりするのは確かだが、耐震性は全く問題ない。東日本大震災の時でもプレハブ校舎は何の問題も起きなかった。プレハブ校舎に引っ越した時から、耐震問題は無くなると考えてもらってもよい。加えて夏冬は冷暖房完備の状態。建築基準法をクリアする建物になっているので安心して欲しい。